

日 立 市 立 助 川 中 学 校

本校では、実践テーマに迫るために、生徒会・常任委員会・学年生徒会が各々で自立的に活動をするとともに、組織間で連携を図ることを念頭に置いて特別活動に取り組んでいる。また、感染症対策に伴い、新しい様式を取り入れた特別活動の実践に励んでいる。

(1) 学級活動

まずは、普段の学校生活に着目し、学級内の良い点と改善点について話し合い活動を行い、学校生活をよりよくするための役割は何かを個人・グループで考える。そして、自分に適した役割を設定する。

話し合い活動を経て、学級生活・学校生活をよりよくするための一人一役を決定していくことで、学級目標達成に向けての取組を自分ごととして捉えられるようになった。



ア 鵬祭（文化祭）

全校生徒が参加できる文化祭を目指し、生徒の活躍の場を多方面で設けた。書道パフォーマンスによるテーマ発表や折り鶴での全校制作、楽器演奏等、生徒達が普段の学校生活の中で見ることができない一面を表現する良い機会となった。



また、合唱コンクールにおいても、感染症対策をとりながら学年ごとに体育館で実施した。リモートで他学年の合唱も聴くことができ、学校全体での一体感も感じられた。

生徒会をはじめ、学年生徒会や各委員会が文化祭実施に向けて、積極的に取り組んだ成果が大いに発揮された。



- ・コロナ禍の中、例年と異なる形で学校行事を実施することで、新しい方法や見方が生まれた。
- ・各学年で成果のある学級活動の実践がある反面、学年間での共有が薄かった。今後は、学級間、学年間で活動の共有を図り、学級活動を発展させる。
- ・生徒の得意を生かし、全校生徒が様々な形で参加する文化祭の実施ができた。今後は、文化祭だけでなく他の学校行事においても、生徒の得意を生かし、多くの生徒が活躍できる場を増やす。
- ・生徒会、常任委員会、学年生徒会それぞれを軸にし、一月一活動を目標とする。同時に、生徒会、常任委員会、学年生徒会同士の連携を怠らず、情報の共有を行う。